

履修要綱

実務教育研究科 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

実務領域にかんする教育・人材育成を行う高度専門職業人たる実践地のプロフェッショナルとなるにあたって、学生に修得することが求められるのは、「実践の理論」の創造や利活用に向けて、1) みずから携わる領域における固有の知識の社会的布置を見定める能力や、2) 経験や暗黙知を言語化・体系化して実践の場での活用と深く結びついた固有の理論をつくりだす能力、そして、3) 創造した知識を効果的に伝達するための教育プログラムを構想・実現する能力である。そのため、実務教育研究科では、つぎのとおりディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定める。実務教育研究科は、本研究科の理念・目的及び教育目標に基づき、所定の単位を修得し、専門職学位論文の審査に合格し、学修成果が次の到達目標に達した学生を、実務教育分野における卓越した能力をもつ高度専門職業人と認め、実務教育学修士（専門職）の学位を授与する。

DP1) 自ら携わる実務や組織、産業の領域における固有の知識の社会的布置を、経験的な調査に基づき、社会の動向との関連で理解し、反省的（リフレクシブ）に問い直すことができる（問題を発見し、実証的調査を行う能力）。

DP2) 自ら携わる実務や組織、産業の領域における経験や暗黙知を、社会学や教育学の理論に基づいて、論理的に言語化・体系化することで人類共通の知識として参照・比較可能な形式知に変換し、実践の場での活用と深く結びついた固有の理論を創造できる（理論的に思考する能力）。

DP3) 自ら携わる実務や組織、産業の領域における実践と深く結びついた固有の理論を効果的に伝達・普及するための実行可能なプログラムを構想できる（社会を構想し提言する能力）

実務教育研究科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会情報大学院大学実務教育研究科は、ディプロマ・ポリシーに示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

学生自らが実務経験で身につけた専門的知識と実践的な視野の上に、個別の学生の関心に沿ってより専門的な学修を深める機会を提供するため、理論的科目と実践的科目を有機的に組み合わせ、段階的に履修できるような教育課程を編成・実施する。

CP1) 自らが携わる実務や組織、産業の領域における固有の知識の社会的布置を社会動向との関連で理解し、反省的（リフレクシブ）に問い直す理論と方法を学修するための科目を配置する。

CP2) 自ら携わる実務や組織、産業の領域における実務経験を基礎とした実践知を言語化・体系化し、参照・比較可能な形式知へと変換するための理論および方法を学修するための科目を配置する。

CP3) 言語化・体系化された実践知を広く社会と共有するための理論および方法を学修するための科目を配置する。

- ・ 教育課程編成にあたっては、知識・社会・教育をめぐる基本的な概念とその背景を学ぶ基礎科目、専門科目を履修する前段階にあたる学術領域や実践にかんする基本的な概念や動向を学ぶ専門基礎科目、実践知の体系化およびその普及・活用において核となる専門的な学術領域や実践についての理論動向を学ぶ専門科目、個別の学生の実務の領域における課題に応じた理論の創造や伝達・普及の方法論を検討し、社会に実装可能な構想を作りあげるための実践的な科目である展開科目という 4 つの科目区分を段階的に設け、それぞれの科目を配置する。これによって先に記した人材像に到達するための総合的かつ専門的な学修を可能にする。
- ・ また、専門科目においては、それぞれの科目を①実践の場での活用と深く結びついた固有の知識についての理論の創造・社会的位置づけ・理論との融合を中心的に学修する知識社会領域、②組織における知の収集・体系化・継承を中心的に学修する組織学習領域、③社会ニーズを踏まえた次世代の学習理論や学習プログラムの開発や、それを踏まえた教育産業・教育事業の運営・マネジメントを中心的に学修する教育構想領域という 3 つの領域に位置づけることで、知識の社会的布置をめぐる分析・評価や実践と深く結びついた理論の創造、伝達・普及の実践的な方法論を構想する能力を、各自の実務経験や職業専門性に応じたかたちで修得することを可能にする。

- ・ さらに、個別の学生の課題に応じた理論の創造や伝達・普及の方法論を検討し、社会に実装可能な構想を作り上げるための展開科目は、次の3種類に分けて考えられる。第1に、1年次に研究活動に必要な基礎的な素養を身につける。第2に、そのうえで2年次は、実務領域にかんする教育・人材育成を社会に実装するための調査・研究・構想能力を身につけ、専門職学位論文の完成を目指す。第3に、同じく2年次において、授業実践・研修実践とその振り返りを通し、効率的・効果的な人材育成を実現するための実践を行う。
- ・ なお、専門職学位論文の指導には、担当教員を中心に本研究科のすべての専任教員があたり、個別の学生の関心に応じた適切な教員による個別の指導・助言をおこなうほか、複数回の報告会を設けることで、学生が多面的な観点から指導・助言を受ける機会を設ける。
- ・ 授業形態は高度な専門知識や知識の体系化手法を実践的・体系的に学ぶ機会を提供する講義と実践と深く結びついた理論の創造とその伝達・普及の効果的な方法を実践的に身につける演習に大別される。いずれの科目においても、専門職大学院の趣旨に鑑み、双方向の少人数教育を重視し、ディスカッションに加えて、ケース・スタディ、ワークショップ等の形式での授業を積極的に取り入れる。これによって、体系的かつ実践的な理解に基づき、自ら携わる実務や組織、産業の領域に関する教育構想を行うための的確な判断と柔軟な思考の修得機会を提供する。
- ・ 各科目の学修成果は、筆記試験、レポート試験、演習・実習成果等に加え、各科目の性格に応じて、授業内課題、質疑応答や討論への貢献状況、演習にあっては期間中の調査・準備の状況に基づいて評価する。成績評価は100点満点で行い、80点以上を優、70点から79点を良、60点から69点までを可、59点以下を不可とし、優・良・可の評価に対して単位を認定する。成績評価の具体的な方法はシラバスにおいて授業科目ごとに明示する。

1. カリキュラム・履修方法

実務教育研究科のカリキュラムは、「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」「展開科目」より構成されています。各科目群で所定の単位数を満たす必要がありますので（3. 修了要件）、ご確認のうえ履修科目を選択してください。

導入集中授業として、4月12日（月）から18日（土）に教務システムや研究倫理に関するガイダンスをいたしますので、必ず受講してください（27頁をご参照ください）。

1-1 基礎科目

基礎科目は、知識・社会・教育をめぐる基本的な概念とその社会的背景を学修するための科目です。「知の理論」が必修科目です。

1-2 専門基礎科目

専門基礎科目は、実務教育研究科の専門科目を履修するための前提または補助となる学術領域や実践に関連する基礎的な概念と、議論や実践の動向を学修するための科目です。

1-3 専門科目

専門科目は、実践知の体系化およびその普及・活用において核となる専門的な学術領域や実践についての理論動向を学修し、知識の社会的布置をめぐる分析・評価や、実践と深く結びついた理論の創造、伝達・普及の実践的な方法論を構想する能力を、個別の学生の実務経験や専門性に応じたかたちで修得することを目的とした科目です。

1-4 展開科目

展開科目は、個別の学生の実務の領域における課題に応じた理論の創造や伝達・普及の方法論を検討し、社会に実装可能な構想を作り上げるための実践的な科目から構成されています。「探究基礎演習」「探究演習」「実践教育プロジェクト演習」が必修科目です。

1年次での「探究基礎演習」の履修にあたっては、導入集中授業の際に説明会を実施いたします。2年次での「探究演習」の履修にあたっては、1月8日（土）に1年次向けの説明会を実施いたしますので、大学院事務局からの連絡にご注意ください。

多様な教員・学生の観点に触れることを望む場合は、2科目を上限とし、複数の「探究演習」を履修することを妨げません。専門職学位論文の指導を受け、修了審査試験に合格することは、本学の修了要件のひとつです。

1-5 履修方法

前期・後期それぞれの履修期間においてオンラインで履修登録手続きを行っていただきます。各期の1週目を「オリエンテーション期間」としていただきますので、第1講を受講した段階で履修科目を決定してください。年間の単位取得上限は24単位です。

各科目のシラバスは、授業開始に先立って、授業科目の内容をあらかじめ示し、学修意欲の向上、学修内容の充実を目的として作成しています。オリエンテーション期間では、担当教員がシラバスに基づいて授業概要を説明いたしますので、必ず本冊子を持参してください。なお、履修申請がなされていない科目の単位取得は認められませんので、必ず履修申請を行ってください。

(1) 履修申請にあたっての注意事項

- ・履修科目の選択に不安がある場合は、学修計画について教員と相談してください。
- ・履修申請期間終了後は、原則として申請した科目の変更はできません。やむを得ず履修申請期間外の追加履修申請や履修申請削除が必要な場合は、大学院事務局にて確認のうえ、必要な手続きを行ってください。
- ・時間割等の変更がある場合は、Teams、メール (@mics.ac.jp または @pe.mics.ac.jp) ないし掲示等でお知らせしますので、必ず確認の上、履修申請をしてください。
- ・既に習得した科目を再度履修することは原則として認められません。

(2) 履修申請の日程

前期授業開始科目の履修申請期間	2021年4月19日(月) - 29日(木)
後期授業開始科目の履修申請期間	2021年9月27日(月) - 10月7日(木)

※ やむを得ない事情で履修修正が必要な場合、大学院事務局に直接ご相談ください

2. 成績評価

2-1 成績評価

成績は、各科目がシラバスにて定める方法により判定し、4段階で評価します。不可の科目については、単位は認定しません。成績証明書には、優、良、可の評価を受け、単位を認定された科目が記載されます。成績通知書は、当該期末までに郵送いたします。

優：100 - 80点　　良：79 - 70点　　可：69 - 60点　　不可：59点以下

2-2 試験

試験とは、担当教員が学期期間内に独自に実施するテストおよびレポート等を指します。試験期間は特に定めておりませんので、各授業科目の担当教員に確認してください。病気その他やむをえない事故のため、試験を受けることができなかった場合には、学則第25条に基づき、追試験を実施することがあります。

2-3 試験における不正行為

定期試験・授業内試験、レポート等における不正行為は、学則に基づき厳しく処罰されます。当該科目が不合格になるだけでなく、場合によっては譴責、減点、停学または退学の処分を受けることもあります。

(1) 定期試験・授業内試験における不正行為の例

定期試験、授業内試験等において、不正とみなされる行為の例は、以下の通りです。

他人の答案を見る・見せる
他人の答案を代筆する・他人に代筆させる
他人の受験を代理した・させた
試験時間中に監督者から配付された答案用紙以外の答案用紙を使用して答案を作成する・使用可能な状態におく
当該試験に持込みを許可された物以外の物を使用して答案を作成する・使用可能な状態におく
持込みを許可された物を含む物品を他人とやり取りする
答案作成に利用する目的で、試験時間中に言語、動作、携帯電話その他の通信手段を用いて相互に連絡を取り合う
答案作成に利用する目的で、学内の施設及び設備並びに受験者の身体、衣服、筆記用具等に書き込みを行い、それを利用して答案を作成する
その他、試験監督者の指示に従わない

(2) レポートにおける不正行為防止のポイント

レポートや専門職学位論文における剽窃・盗用は、学問の基本倫理に反し、他人の著作権を侵害するのみならず、自らの学びの機会と公正な評価を妨げる、きわめて重大な不正行為ですので、絶対に行わないでください。研究倫理については、前期と後期に設ける「導入集中授業」や「演習選択説明会」の場でも解説しますので、必ず出席してください。

以下に、執筆上の最も重要なポイントを挙げます。

自分の意見とそれ以外の部分を明確に分ける。
文章全体の質・量において、自らの文章が「主」、引用部分は「従」の関係。
他人の文章や見解等を引用・参照する場合は、必ず出典を明らかにする。
文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
出典の示し方はルールに従う。
インターネットからの引用は URL とページタイトル、およびその取得日を載せる。
未公開著作物からの引用はしない。

演習の履修前に「専門職学位論文 執筆の手引き」を配布いたしますので、あわせてご確認ください。不明・不安な点がある場合には、演習指導教員に相談してください。

3. 修了要件

実務教育研究科の課程を修了するには、次の要件をすべて満たす必要があります。

① 休学・停学期間を除いて2年以上在学すること
② 合計32単位以上を修得すること
③ 基礎科目の「知の理論」の単位を修得すること
④ 専門基礎科目から4単位以上、専門科目から6単位以上修得すること
⑤ 展開科目の「探究基礎演習」4単位、「探究演習」から4単位以上、「実践教育プロジェクト演習」4単位を修得すること
⑥ 専門職学位論文の審査および修了審査に合格すること

※ 1年間に修得できる単位の上限は24単位です

3-1 修了審査の手続き

修了審査を受けるにあたっては、以下の書類を提出する必要があります。指定する日時に、大学院事務局に提出してください（時間厳守）。

- ・修了審査願（確定した表題を含む）
- ・専門職学位論文（PDF ファイル）
- ・専門職学位論文サマリー（PDF ファイル）

なお、専門職学位論文は1編に限りませんが、参考文献として、その他レポートに類するものを添付することは差し支えありません。また、提出された書類は返付しません。

3-2 専門職学位論文提出の要件

専門職学位論文の提出は、以下の要件を満たした場合にのみ可能となります。

研究科	専攻	専門職学位論文執筆・提出要件
実務教育研究科	実務教育専攻	① 所定の報告会・審査会にて発表していること ② 所定の科目について32単位以上を取得もしくは取得見込みであること

3-3 報告会・審査会

令和3年度は、下表の通り報告会・審査会を実施する予定です。入学時期・修了時期によって実施日程が異なりますのでご注意ください。

	修了時期	
	2022年3月（入学前の既修得単位認定に伴い修業年限の通算が行われた者）	2023年3月（2021年4月入学者）
1年次中間報告会		2022年2月23日（水・祝）
2年次中間報告会	2021年8月9日（月・祝）	2022年8月予定
2年次中間審査会	2021年11月6日（土）	2022年11月予定
2年次最終審査会	2022年2月11日（金・祝） ※ 学事日程参照	2023年2月予定

※ 提出物等につきましては、大学院事務局より別途ご連絡いたします

3-4 学位

本研究科で授与される学位は以下の通りです。

研究科	専攻	学位
実務教育研究科	実務教育専攻	実務教育学修士（専門職）

3-5 令和3（2021）年度実務教育研究科 修了関係日程

事項	専攻および学位	実務教育専攻
		実務教育学修士（専門職）
専門職学位論文提出日 ・ 修了審査願 ・ 専門職学位論文（PDF データ） ・ 専門職学位論文サマリー（PDF データ）		2月1日（火）
研究科教授会 ・ 専門職学位論文受理数の確認 ・ 修了審査委員会の設置		2月4日（金）
最終審査会 ・ 主査／副査による専門職学位論文の審査		2月11日（金・祝） ※予備日：7日（月） - 12日（土） 再審査：2月21日（月） - 26日（土）
修了審査委員会 ・ 合否判定、審査結果の作成		2月23日（水・祝）
研究科教授会 ・ 修得単位、修了審査委員会の結果に基づき決裁		3月11日（金）
学位授与式		3月21日（月・祝）

令和3（2021）年度 開設科目一覧

科目区分	科目コード	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
基礎科目	PEPA1101L	知の理論	川山 竜二	①②	講義	2	1	前期	土A	必修	
	PEPA1102L	社会学基礎理論	富井 久義	①②	講義	2	1	後期	木B		
	PEPA1103L	教育学基礎理論	廣谷 貴明	①②	講義	2	1	前期	金A		
	PEPA1104L	人材育成の基礎	田原 祐子	①③	講義	2	1	前期	月B		
	PEPA1105L	現代社会論	橋本 純次	①②	講義	2	1	前期	火A		
必修科目「知の理論」（2単位）を修得する											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
専門基礎科目	PEPB201L	教育社会学	吉岡 三重子	①②	講義	2	1	後期	土A		
	PEPB202L	産業社会学	富井 久義	①②	講義	2	2	前期	月A		
	PEPB203S	組織論	坂本 文武	①③	演習	2	1	前期	木B		
	PEPB204L	知識社会学	川山 竜二	①②	講義	2	1	後期	水A		
	PEPB205S	インストラクショナル・デザイン	伴野 崇生	②③	演習	2	1	後期	金A		
	PEPB206L	認知学習論	石崎 友規	②③	講義	2	2	後期	金B		
	PEPB207L	アンドラゴジー	伴野 崇生	②	講義	2	2	前期	金A		
	PEPB208L	現代教育政策	廣谷 貴明	③	講義	2	2	後期	月A		
	PEPB209S	グローバル教育実践	本間 正人	③	演習	2	1	後期	水B		
	PEPB210L	教育相談	池田 幸代	③	講義	2	2	前期	金B		
	PEPB211L	教育産業と教育事業	廣政 愁一	②③	講義	2	1	後期	月B		
	PEPB212L	現代の教育事情_教育サービスの現状と未来	山田 未知之	③	講義	2	1	後期	火A		
	PEPB213S	情報リテラシー	橋本 純次	②③	演習	1	1	夏季集中	—		
専門基礎科目から4単位以上を修得する											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
専門科目	知識社会	PEPC1301S	省察的实践	川山 竜二	①②	演習	2	1	前期	木A	
		PEPC2302S	実践と理論の融合	川山 竜二	②	演習	2	2	前期	月B	
		PEPC2303L	知識と大学	篠田 雅人	①③	講義	2	2	後期	月A	
		PEPC2304S	プロフェッションとプロフェッショナルスクール	川山 竜二	①③	演習	2	2	後期	金A	
	組織学習	PEPC1305S	学習する組織	田原 祐子	①③	演習	2	1	後期	火B	
		PEPC2306S	学習社会論	篠田 雅人	①	演習	2	2	後期	月B	
		PEPC2307S	ナレッジ・マネジメント	田原 祐子	②③	演習	2	2	前期	火B	
		PEPC2308S	人材開発マネジメント	石田 淳	③	演習	1	2	冬期集中	—	
	教育構想	PEPC1309S	ラーニング・イノベーション	本間 正人	①②	演習	2	1	後期	木A	
		PEPC2310S	教育コンテンツ開発	廣政 愁一	③	演習	2	2	前期	水B	
		PEPC2311L	教学マネジメントの理論と実践	藏田 實	①②	講義	2	2	前期	土A	
		PEPC2312S	ICTと教育	橋本 純次	③	演習	2	2	後期	火A	
専門科目から6単位以上を修得する											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
展開科目	PEPD1401S	探究基礎演習	川山竜二/富井久義	①②③	演習	4	1	通年	土B/水B	必修	
	PEPD2402S	探究演習（知識社会学）	川山 竜二	①②③	演習	4	2	通年	土B	選択必修	
	PEPD2403S	探究演習（学校経営デザイン）	藏田 實	①②③	演習	4	2	通年	土B	選択必修	
	PEPD2404S	探究演習（インストラクショナル・デザイン）	伴野 崇生	①②③	演習	4	2	通年	土A	選択必修	
	PEPD2405S	探究演習（産業社会学）	富井 久義	①②③	演習	4	2	通年	木A	選択必修	
	PEPD2406S	探究演習（教育学）	廣谷 貴明	①②③	演習	4	2	通年	水A	選択必修	
	PEPD2407S	探究演習（教育産業と教育事業）	廣政 愁一	①②③	演習	4	2	通年	月A	選択必修	
	PEPD2408S	探究演習（組織論）	坂本 文武	①②③	演習	4	2	通年	火A	選択必修	
	PEPD2409S	探究演習（教育社会学）	吉岡 三重子	①②③	演習	4	2	通年	土B	選択必修	
	PEPD2410S	実践教育プロジェクト演習	藏田實/伴野崇生/廣谷貴明	①②③	演習	4	2	通年	土A	必修	
展開科目の必修科目「探究基礎演習」（4単位）「実践教育プロジェクト演習」（4単位）を修得する 選択科目から4単位以上（8単位以内）を修得する											

令和2（2020）年度「次世代人材育成探究プログラム」開設授業科目との対照表

既修得単位の認定において、下記のとおり次世代人材育成探究プログラム開講科目における修得単位を、実務教育研究科の単位として認めます。

実務教育研究科科目名	単位数	次世代人材育成科目名	単位数
探究基礎演習	4	次世代人材育成探究演習	4
知の理論	2	知の理論	2
組織論	2	組織論	2
教育学基礎理論	2	教育学概論	2
教学マネジメントの理論と実践	2	教学マネジメントの理論と実践	2
インストラクショナル・デザイン	2	インストラクショナル・デザイン	2
アンドラゴジー	2	アンドラゴジー	2
—	—	実務家教員概説	4
知識と大学	2	高等教育論	2
プロフェッションと プロフェSSIONALスクール	2	職業教育	2
実践と理論の融合	2	実践と理論の融合	2
学習社会論	2	学習社会論	2
ナレッジ・マネジメント	2	ナレッジ・マネジメント	2
人材育成の基礎	2	人材育成	2
教育産業と教育事業	2	教育産業と教育事業	2
現代の教育事情_教育サービスの現状 と未来	2	現代の教育事情	2
教育コンテンツ開発	2	教育コンテンツ開発	2